

介護老人福祉施設 足原のぞみ苑

足原のぞみ苑ユニット

短期入所生活介護

令和5年度 事業報告 (R 5. 4. 1~R 6. 3.31)

1. 概況報告

<足原のぞみ苑>

ア) 利用者の状況

① 入所者数 80名 (男性 12名、女性 68名)

(内) 要介護1 2名
要介護2 3名
要介護3 19名
要介護4 33名
要介護5 23名

② 平均介護度

平均介護度 3.9

③ 令和5年度ベッド稼働率 (R 5. 4. 1 ~ R 5. 3.31)

・98.2% (前年度94.3%)

④ 入所待機者

・今回入所待機者 82名 (R 5. 1 2. 1~R 5. 5. 3 1)

前回待機者 76名

⑤ 職員の状況

・介護職員 34名 (常勤換算 33.7)

・看護職員 11名 (常勤換算 7.3)

・機能訓練指導員 1名

・人員配置 2.4 : 1

<足原のぞみ苑ユニット>

ア) 利用者の状況

① 入所者数 20名 (男性 5名、女性 15名)

(内)	要介護1	1名
	要介護2	2名
	要介護3	9名
	要介護4	6名
	要介護5	2名

② 平均介護度

平均介護度 3.3

③ 令和5年ベッド稼働率 (R 5. 4. 1 ~ R 5. 3. 31)

・94.3% (前年度99%)

④ 入所待機者

・今回入所待機者 18名 (R 5. 1 2. 1 ~ R 6. 5. 3 1)

前回待機者 20名

⑤ 職員の状況

・介護職員 10名 (常勤換算 10)

・看護職員 2名 (常勤換算 2)

・人員配置 1.6 : 1

<足原のぞみ苑短期入所生活介護>

ア) 利用者の状況

① 令和5年度ベッド稼働率 (R 5. 4. 1 ~ R 5. 9. 30)

・72.6% (前年度74.6%)

② 平均介護度

平均介護度 2.7

2. 事業報告

ア) 地域活動

<計画>

- ・地域活動に参加し、地域に密着した施設を目指す。
- ・防災会議の参加。
- ・民生委員と福祉協力員との関係の構築
- ・熊本町内の要介護者の把握
- ・地域参加型の防災訓練の実施

(結果)

・地域の夜間パトロールや清掃活動、市民センターとの関係構築が行えている。市民センターや自治会と連携をとり、情報の共有はできていた。今年に入って3回福祉非難所を開設したが受け入れはなかった。

【評価】

・市民センターや自治会とは良い関係ができていますが、公益事業を行えてはいない。地域の活動に参加して、地域の相談事にはのれているが、地域の困難なことを吸い上げるシステムが構築できていない。今後の課題である。

イ) 職員教育、職場環境について

<計画>

- ・指導教育のできる職員を増やし、職員の質を向上させる。
- ・苑外研修に参加し、知識スキルアップを図る。
- ・新人職員の教育システムの構築
- ・介護技能実習生の教育システムの構築
- ・間接介助職員の教育システムの構築
- ・介護福祉士実務者研修のシステム構築
- ・LIFEによるPDCAサイクルの実施

(結果)

- ・各フロアに主任とリーダーを置くシステムを構築できたが、まだそこに責任を持つての仕事の成果はでていない。
- ・介護実務者研修実習施設として稼働している。
- ・新人教育システムはスムーズに行えている。
- ・介護技能実習生は、予定の3年を超えて4年目に入っているが順調に介護分

野をまかせることができている。

- ・実務者研修は今年度実施できていない。
- ・施設外研修の参加状況は、キャリアパス過程としての研修参加は、実務者研修4名、キャリアパス対応生涯研修4名、リスクマネジメント研修4名、九州老人福祉施設研究大会9名参加している。

【評価】

- ・職員の質をあげるための試みは常に考えているが、実際に伸びている介護職員は2割程度である。目標をもって仕事に取り組むことができ、モチベーションを上げるきっかけづくりを心掛けている。

ウ) 継続可能な人事制度の構築、職員の質の向上について

<計画>

- ・安心して仕事ができ仕事意欲をあげることができる。
- ・新職員の離職率を減らしていき、質の高い職員の確保を行う。
- ・継続雇用職員の人事評価制度の構築
- ・間接介助職員の人事評価システムの構築
- ・男性と女性の育児休業取得の推進

(結果)

- ・退職者は10名。退職理由は環境要因ではなく、質の高いサービスの提供や、人事考課制度の導入に対してと、新たなところでのチャレンジと体力的に限界ということだった。

【評価】

- ・介護業務による利用者に対しての介護の質はあがってきている。認知症の方の受け入れや、介護度の高い方の受け入れを積極的に行えている。職場の雰囲気は良い。人事考課システムも順調に進んでおり、職員面接や、相談を取り入れることで、納得いく形でいっている。退職者に関しては本人要因が大きい。日本人の職員と特定技能実習生での施設運営は上手く回っている。

【まとめ】

今年度の結果としては、運営に関しては特養とショートステイは予定以上の結果だったが、ユニット型特養の20床の稼働が予定以下となった。理

由としては、ユニット型特養の入所待機者の減少と入院が長引き、退所とするまで時間がかかってしまったことだ。ユニット型特養の稼働率をあげる対策は、今後の運営課題と捉えている。今年度の財務に関しては、保守費の見直しを行った。業者を再度選定することと、何に質を高めるかということを考え費用は軽減できた。来年度は修繕費に費用がかかる予定だ。施設本体の壁の補修と、壁紙と水回りの補修が必要になっている。来年度隣接する土地の購入予定だが、まずは駐車場として使用し、今後使用についてはじっくり考えていきたい。

来年度の目標は、職員と利用者の満足度をあげることと、社会福祉法人としての公益事業の取り組みに力を入れていく。地域の福祉ニーズを探るための無料ボランティアの立ち上げと、社会福祉協議会、自治会、まちづくり協議会との連携強化を行っていく。そうすることで、地域からの信頼を得ることができ、足原のぞみ苑の存在価値を上げることができる。地域への取り組みは、足原校区のみ行っていたが、来年度は活動範囲を広げていく予定である。高齢者の減少と人材不足による経営不振が今後予想されるが、社会福祉法人として何をする必要であるのかを、全部署で話し合う機会を持ち、職員全員で考えていける集団をつくっていく。10年後も法人存続のための取り組みを行っていきたい。